

第2回 県立高等学校改革懇談会 『耶麻農業・会津農林』

日時：令和 2年 1月20日（月）14：00～15：30
場所：耶麻農業高等学校 視聴覚室

福島県教育委員会

本日の進め方

1 耶麻農業・会津農林統合校の方向性について

2 第1回懇談会でいただいた意見について

3 スケジュールについて

1

耶麻農業・会津農林統合校の方向性について

急激な少子化

- 全県的な中学校卒業見込者数の減少
 - ・ 2017年から2028年間で約5,300人の減少
- 喜多方市・河沼郡・大沼郡・会津若松市の少子化
 - ・ 10年間で529人(25.6%)の減少
- 両校の定員充足率の状況（直近3年間）
 - ・ 耶麻農業 66%(53名) → 53%(42名) → 45%(36名)
 - ・ 会津農林 87%(104名) → 79%(94名) → 95%(114名)

高校改革は喫緊の課題に

耶麻農業高校

- 産業技術科
ライフコーディネート科
(定員80名：2学級)

会津農林高校

- 農業園芸科、森林環境科
食品加工科
(定員120名：3学級)

2023年4月開校予定

耶麻農業・会津農林統合校（仮称）

農業科4学級規模（定員160名）

場所：会津農林高校

耶麻農業・会津農林統合校（仮）

地域の未来を担う人材を育成

「会津の農業拠点校として、地域に根ざした生徒を育てる」

職業教育推進校

- 農業教育の拠点として、高い専門性を身に付けるための教育活動により地域産業を支える核となる「職業教育推進校」に位置づけ

6次産業化に対応できる人材育成

- 食料生産に必要な知識・技術を習得、米や伝統野菜栽培でのGAP認証取得
- 林産物の加工や生産及び発酵等の食品加工技術を活かした商品開発・農福連携等の教育活動
- 大学や研究機関との連携による専門的な学び

地域への貢献

- 伝統野菜作り、そば打ちや発酵・醸造の技術など会津の農業資源の継承発展に寄与
- 小中学生との交流を通じた教育活動、御田植祭への参加といった地域との連携

大学・研究機関との連携

会津の豊かな農業資源の
継承発展に寄与する学び
・伝統野菜、そば、発酵、醸造

専門的、実践的な
知識・技能の習得

GAP認証取得

地域の伝統文化を
継承する活動

2 第1回懇談会でいただいた意見について

第1回懇談会でいただいた主な御意見

① 統合の方針の示し方

- 子どもたちの声をくみ取るべきではないか。
- 会津農林高校は坂下高校との統合が自然なのではないか。

② 統合校の魅力化・特色化

- 農業において、会津、福島を代表する学校となって欲しい。
- 両校が行ってきた取組や伝統を引き継いで欲しい。

③ 統合後の在校生へのケア

- 耶麻農業高校の生徒が会津農林の校舎で生活できるのか不安がある。
- 山都～会津坂下間は交通の便が悪い。統合後、耶麻農業高校の2, 3年生が会津農林校舎に通うことができるのか。

学校教育審議会の動き

※有識者19名で構成

- 平成28年 5月 社会の変化に対応した今後の県立高等学校の在り方について諮問
- 平成28年 7月～ 学校訪問（都市部の高校、周辺部の高校）
- 平成28年 12月～ 中間まとめ公表（県内7地区での※教育公聴会）
- 平成29年 6月 県教育委員会へ答申

※教育公聴会メンバー：各地区の中学生、高校生
小中学校のPTA会長および高等学校評議委員

県立高等学校改革基本計画 素案公表 平成29年 11月

県民の皆様からの意見聴取

- 平成29年11月～平成30年2月 **パブリックコメント**（期間を延長して実施）
- 平成30年 1月 **県内7地区での※教育公聴会**

県立高等学校改革基本計画の策定 平成30年 5月

- 県立高等学校改革**前期**実施計画（2019年度～2023年度）5年間（平成31年2月公表）
- 県立高等学校改革**後期**実施計画（2024年度～2028年度）5年間

① 統合の方針の示し方

再編整備の方向性

耶麻農業高校

- 産業技術科、
ライフコーディネート科
(定員80名：2学級)

会津農林高校

- 農業園芸科、
森林環境科、食品加工科
(定員120名：3学級)

大沼高校

- 普通科
(定員80名：2学級)

坂下高校

- 普通科
(定員80名：2学級)

耶麻農業・会津農林統合校
農業科 4学級規模 (定員160名)
場所：会津農林高校
(2023年4月開校予定)

職業教育推進校
農業教育の充実

大沼・坂下統合校
普通科 4学級規模 (定員160名)
場所：大沼高校
(2022年4月開校予定)

キャリア指導推進校
普通科教育の充実

耶麻農業高校

会津農林高校

統合校



- ・ 一定の集団規模を確保し、学びの質を高める
- ・ 農業技術の高度化に対応する学びを確保する

- 農業教育の拠点として、高い専門性を身に付けるための教育活動
- 会津の豊かな農業資源や伝統文化を継承し、発展させる学び
- ICTやIoTなどの先端技術を活用した新しい農業の学び



地域を支える人材の育成
農業及び農業関連産業で活躍する人材を育成
6次産業化に対応できる人材を育成

農業園芸科 (仮)

農業生産や農業経営の分野

学習内容：作物、野菜、草花、果樹、畜産、GAP取得等

森林環境科 (仮)

国土保全や環境創造の分野

学習内容：森林科学、森林経営、造園、土木、測量等

食品加工科 (仮)

食品製造や食品流通の分野

学習内容：食品製造、食品化学、発酵・醸造等

地域資源活用学科 (新設・仮) 資源活用や地域振興の分野

学習内容：生物活用、地域資源活用、園芸、6次産業化、農福連携等

※ 農業4分野すべての学びが可能となる学科設置を検討しています。
現在の会津農林高校の3学科も、統合時に学科名変更を検討しています。

新設学科「**地域資源活用学科**」

- ・ 草花や伝統野菜の栽培と活用
- ・ そば打ちをはじめとする6次産業化への取組
- ・ 農業×福祉の学び（**農福連携**）



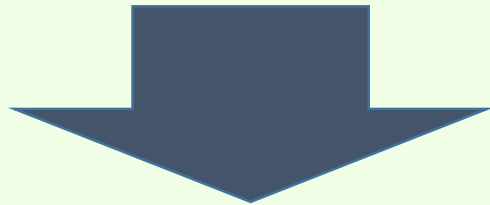
職業人として必要な資質・能力、問題発見力、課題解決力、望ましい勤労観・職業観 等の育成

地域の魅力を知り、発信する 郷土愛を育み、地域に貢献する

農福連携について

(岩瀬農業高校での取組)

- 障がい者の就労施設と連携し、ともに農作業を行う
- 収穫した農産物で、弁当等の商品開発を行う



- ・ 障がい者や生活困窮者の雇用
- ・ 高齢者の生きがいの創出、介護予防



取得できる資格例
卒業後の進路例

既存学科を見直し、コース制の導入も検討します

※学科・コース名はすべて仮のものです

農業園芸科・・・作物畜産コース、園芸コース

農業技術検定
農協・農業自営

森林環境科・・・森林利用コース、造園土木コース

建設機械資格取得
森林組合、林業

食品加工科・・・製菓製パンコース、発酵醸造コース

農業技術検定
食品製造業

(新) 地域資源活用学科・・・園芸活用コース、生活福祉コース

園芸療法士
病院、デイケアセンター

※ コース制をとることで、選択の幅を広げ専門性を深めるとともに、
生徒の興味関心に沿って職業選択につながる学びが可能となります。

県内で唯一 林業を学べる魅力の発信

- ・ ウルシ栽培
- ・ バイオマス活用
- ・ 再生可能エネルギーの研究
- ・ 建設機械資格取得
- ・ 林産物の利用、商品開発



大学や関係機関等と連携した学び (食品加工科の場合)

統合校



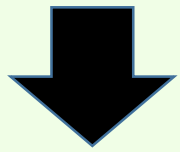
味噌や醤油など
発酵、醸造分野
において連携

大学等

会津地域における
発酵、醸造に関する長い歴史



高い専門性
高度な知識、技能の習得



**生徒の職業観を育成するとともに
会津の魅力を肌で感じ、
地域に貢献できる人材の育成！**

6次産業化へ向けて（学科を横断した学びの実現）

農業園芸科

食品加工科

地域資源活用学科

1次

×

2次

×

3次

=

6次産業化

（生産）

（加工）

（流通・販売）



会津の豊かな
資源活用



魅力を
全国に発信

（例） 伝統野菜栽培 → 商品開発
酒米栽培 → 日本酒製造

耶麻農業高校の取り組み

○ そばの栽培、そば打ち

- ・ そばを栽培するとともに、そば打ちの技能を習得

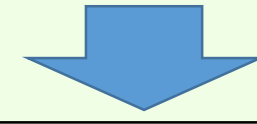


- ・ かあちゃんたちの雪室そば祭り、山都新そば祭りでの出店
- ・ 全国高校生そば打ち選手権大会への出場



○ 花の栽培と販売、造園

- ・ 花を栽培し、販売するとともに駅前等にオブジェを制作



- ・ 草花の販売を通じた地域との交流
- ・ 地域に生徒の学びを知ってもらう



会津農林高校の取り組み

○ 伝統野菜の栽培

- ・ 会津伝統野菜の栽培



- ・ グローバルGAP取得
- ・ 小学生との農作業を通じた交流、地域の方への販売



○ 早乙女踊り

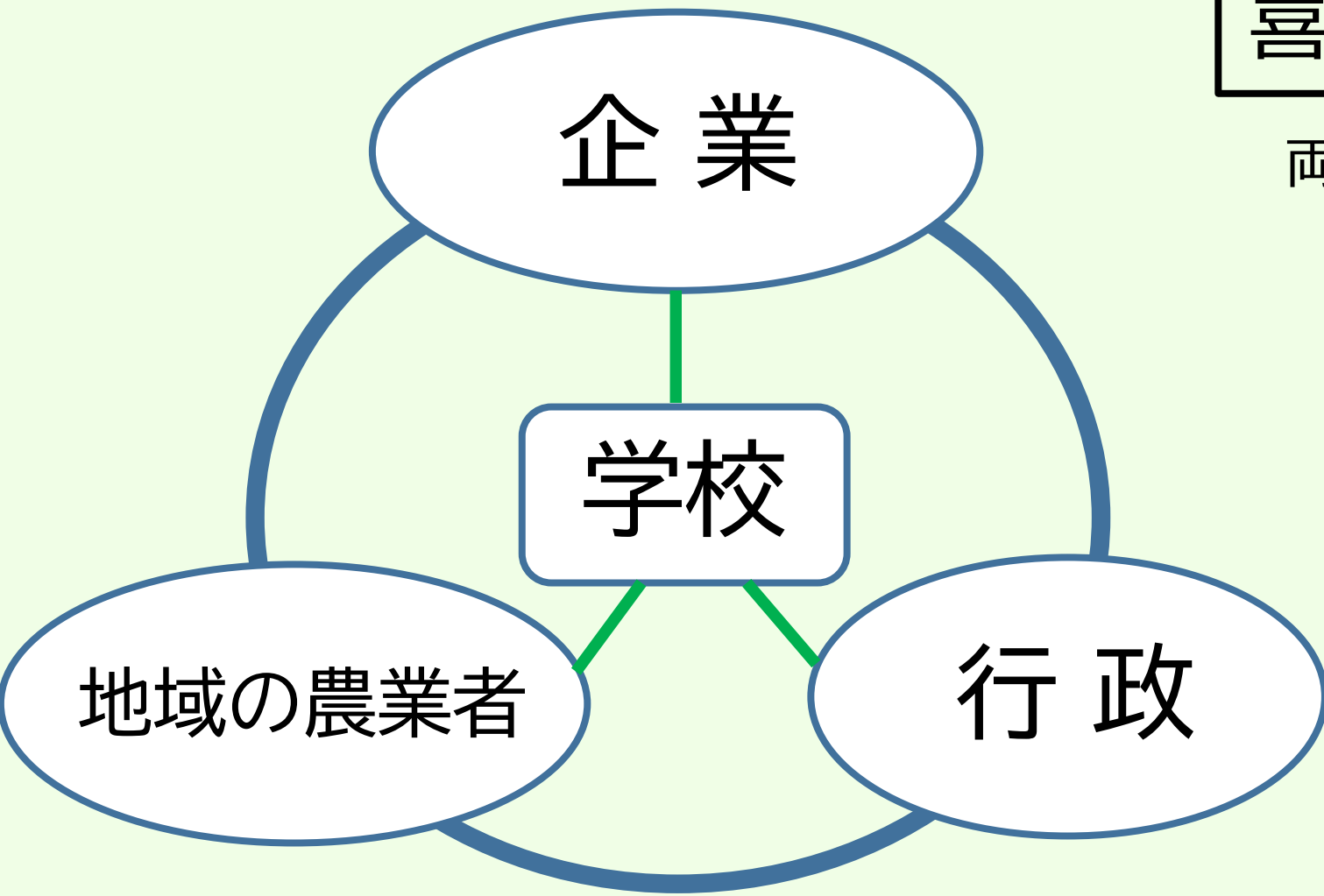
- ・ 伝統芸能「早乙女踊り」の奉納



- ・ 御田植祭はじめ各種祭礼で披露
- ・ 「扇の舞」の復活など地域の方との交流

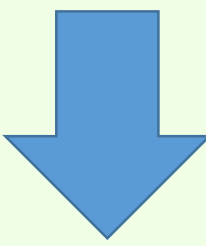


地域と連携した教育活動



喜多方市 会津坂下町

両地域を学びのフィールドに



- ・ 農体験イベントの共同企画
- ・ 新たな特産農産物・加工品の開発
- ・ 6次化産業への取り組み
- ・ 公共施設の緑化等の協力

統合高校の校舎利用方法に対する検討について

- 統合時、耶麻農業高校の生徒が会津農林の校舎に高校生活の途中から通学するには交通の便が悪い。
- 統合後、耶麻農業高校の生徒が、環境が大きく変わることによって、新しい高校での生活に不安を感じるのではないか。

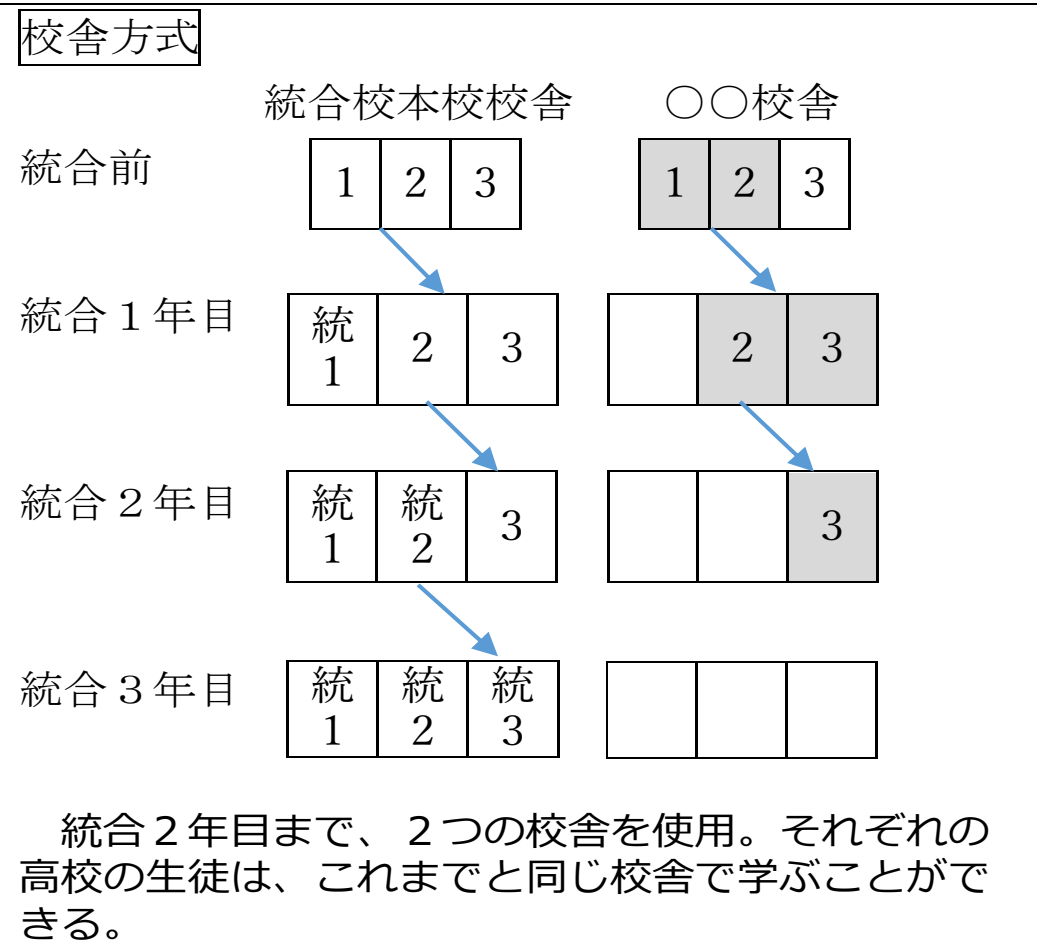
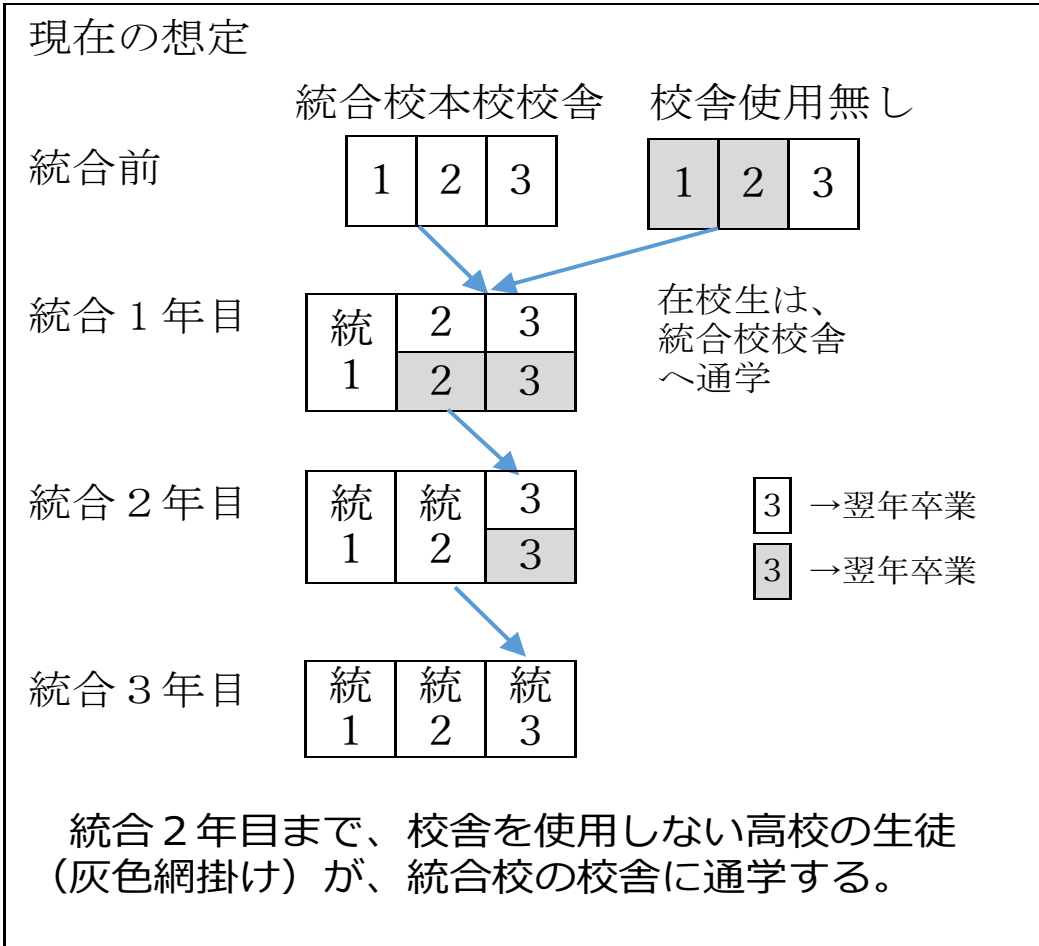
(説明会・改革懇談会など)

対応方法

「校舎方式」

- 統合により1つの高校ではあるが、それぞれの高校の校舎をそのまま使用し、生徒が入学した高校の校舎で卒業まで学ぶ方式。
生徒は統合後も、今まで通学した校舎で学ぶことができる。

現在の想定と「校舎方式」のイメージ



3

スケジュールについて

再編整備に係る教育内容検討委員会の検討スケジュール(案)

2019年度 (令和元年度)					2020年度 (令和2年度)					2021年度 (令和3年度)					2022年度 (令和4年度)									2023年度 (令和5年度)					
11	12	1	2	3	4	5	6	...	3	...	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4		
両校の教職員による教育内容検討委員会																													
統合校 の教育方針・教育目標・校名・教育課程等の検討										統合校 の校名決定					統合校 体験入学実施					統合校 入学者選抜					統合校 開校式 入学式				
統合校 の魅力化・特色化の検討																													
										2021年度入学生 【統合時3年生】 現：中学2年生					2022年度入学生 【統合時2年生】 現：中学1年生														